

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト  
**「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業**  
**第1回 <教材研究会>**

[発行]  
 令和2年6月  
 高知市教育委員会  
 学校教育課  
 学力向上推進室

**学びに熟中する子供の姿がここにある！**

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業は、3年目の最終年となりました。本年度も、これまでの研究の積み上げを確認・共有しつつ、さらなる教材分析力・授業分析力の向上を目指し、潮江東小学校（指定校）を会場に教材研究会・授業研究会を実施していきます。  
 本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、校外から参加して頂いて学び合う研究会を開くことができるのは、早くも9月以降になります。  
 しかし、学校では、学びの歩みを止めることなく、休業中も単元づくりを行い、学校再開後すぐに第1回目の教材研究会を校内で実施しました。9月までは紙面での情報提供になりますが、動き出した本年度の実践を随時紹介していきますので、参考にしてください。

詳しい情報はここで！  
 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクトの研究会の情報やレポートなどは、HPに掲載！



チェック！

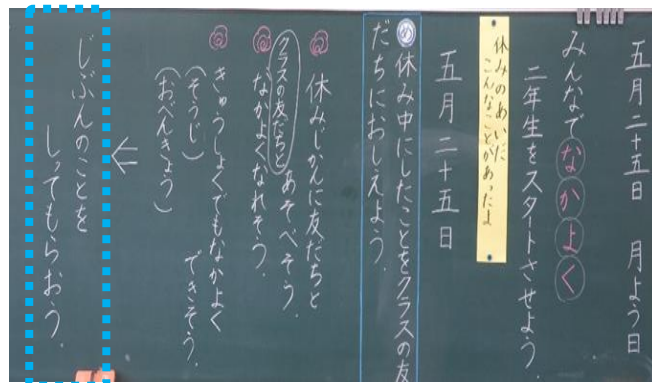
国語科

第2学年 単元名：休みの間、こんなことがあったよ  
 教材名：「いくつあつめられるかな」（東京書籍 2年上）  
 授業者：上平田 和代 教諭（高知市立潮江東小学校）

子供たちの「問い」で単元を描くー「深い学び」に向かう「主体的な学び」の視点からー

【1時間目】単元のゴールに向かう目的や見通しを子供たちが考える

◎新しいクラスでみんなと仲よくなるために、自分のことを知ってもらおう。  
 ■長い休校中のどんなことをクラスの友だちに伝えたら知ってもらえるかな？



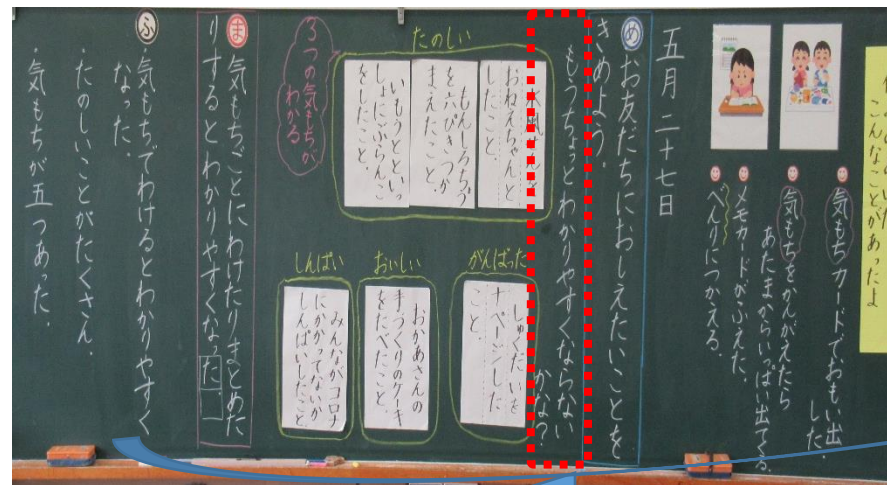
【2時間目】前時の「問い」を解決しようとしたら、次の「問い」が生まれる

◎休みの間にあったことをできるだけ思い出してノートに書き出したよ。  
 ■他にもいろいろあったけど…、どうすればもっとたくさん思い出せるかな？



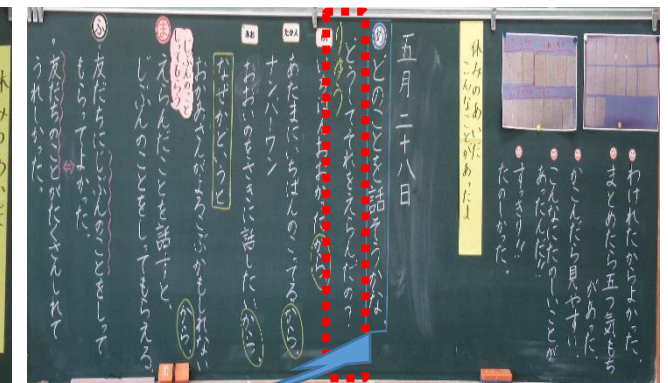
【3時間目】前時の「問い」を解決したら、さらなる<本時> 次の「問い」が生まれる

◎気持ちを考えて思い出したら、たくさんのメモが集まったよ！  
 ■この中から、伝えたいことをどうやって選んだらいいかな？

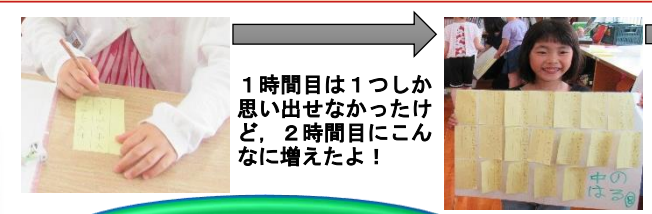


【4時間目】「問い」を解決したら、単元の目的が達成できそうか立ち返る

◎メモを整理できたから、伝えたいことが分かりやすくなったよ！  
 ■選んだことを伝えたら、自分のことを知ってもらって仲よくなれるかな？

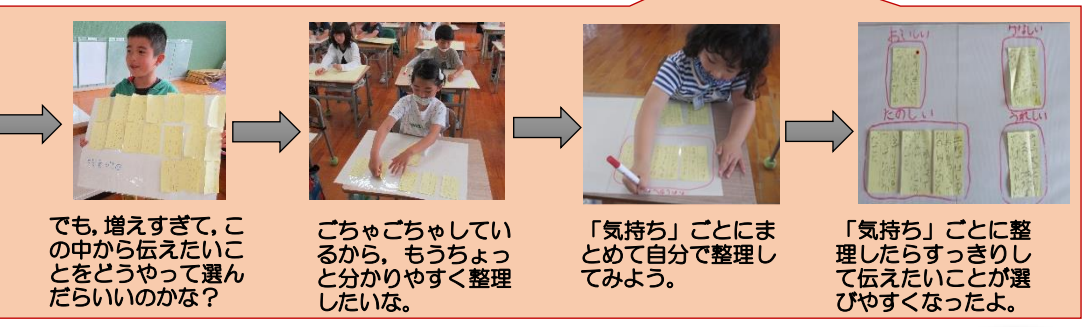


【本時での「言葉による見方・考え方」を働かせている姿】  
 ☆ 休校中のことを友達に教えるために、たくさん集めた休み中にしたことメモ（付箋紙）を、「気持ち」に着目してホワイトボードに整理している姿



授業者の感想

【潮江東小学校 2年2組担任 上平田和代教諭】  
 2年生の子供たちが、書くことに対して抵抗を感じていることの1つに「何を書いてよいか分からない」、つまり、題材の設定や情報収集の弱さがある。とりわけ、話題や情報の思い出し方や選び方に課題がある。そこで、「書くこと」の1年間の学びのスタートとして、話題や情報をどのように思い出して集めればよいのかということを学習することで、これから1年間「書く」時に、使いこなす力の基となるように単元を考えた。  
 また、この単元が、約80日に及ぶ長いコロナ休業明けの新学期・新学級スタートの学級づくりにも有効に活用できるように考えた。整理したホワイトボードを活用することで、視覚的にも工夫して、自分の考えを伝え合う交流ができるように工夫した。



でも、増えすぎて、この中から伝えたいことをどうやって選んだらいいのかな？  
 ごちゃごちゃしているから、もうちょっと分かりやすく整理したいな。  
 「気持ち」ごとにまとめて自分で整理してみよう。  
 「気持ち」ごとに整理したらすっきりして伝えたいことが選びやすくなったよ。

【校内の先生方からの意見・感想】

- 既習の力や前時でできるようになった振り返りを次時の導入につなぎ、子供たちの「問い」が途切れないように単元を描くことによって、子供たちが、自分たちで考えて学習を進めていく姿＝主体的な学びを生み出すことにつながっていく姿を見ることができた。
- 1時間の授業を「大きな問い」で導入して、子供たちの悩みや困り感を引き出しながら、「問うべき問い」（板書の赤点線部）に焦点化して学びを深めようとする中で、一人一人がしっかりと思考できる授業展開になることが実感できた。
- 毎時間「友達に伝えたいことを決める」という言語活動を通すことで、単元のゴールの目的や相手意識が常に働いており、毎時間何をするのが明確になっていた。

昨年度のご指導の、特にここを意識しました！

講師による  
 昨年度最終指導の確認



「深い学び」を描く

高知県教育委員会事務局学力向上総括専門官（島根県立大学教授）  
 齊藤 一弥 先生の春季セミナー（2020.1.24）でのご指導より

「深さの視点」を明確にする

重要

「深い学び」を描くことができているか、以下の「視点」をもって単元や授業を見つめ直すことが大切である。

- 1 「主体的な学び」<主体>の視点とは…  
 ①見通しと粘り強さがあるか？②学習の意味を子供たちがつかめているか？③振り返りはあるか？④学びの成果の自覚と他者との共有はされているか？
- 2 「対話的な学び」<協働>の視点とは…  
 ①既習内容の理解をさらに深めるための多様な手立てはあるか？②自己内の理解や表現の多様性への気付きはあるか？
- 3 「深い学び」<創造>の視点とは…  
 ①見方・考え方の成長（できるようになった自分へのメタ認知）はあるか？②新たな力の育成（できるようになりたい自分）への関心はあるか？